

# モデル構築事業について

2024年2月20日  
株式会社omochi

# 目次

---



1. 会社の紹介
2. 事業の概要
3. 進捗状況
4. 今後の展開

# 会社の紹介



会社名	株式会社omochi
所在地	兵庫県神戸市灘区篠原北町 4-11-31-303
代表者名	土井仁吾
従業員数	8名(アルバイト・業務委託を含む)
ミッション-取り組むこと	「食の豊かさにふれられる時間・場所・人をひろげる」
ビジョン-目指すもの	「100年先の子どもたちが豊かな食にふれられる世界」
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>○小学校・中学校・高校・大学等の教育機関への出張ワークショップ事業</li><li>○教育コンテンツ開発事業</li><li>○人材育成事業</li><li>○宅食サービス事業</li></ul>
主な取り組み実績の一部	<p>2022年6月:神戸市健康局と学童向け食育動画プログラムを制作</p> <p>2022年8月:経済産業省「未来の教室」実証事業に採択(栄養教諭が学校・教員を繋ぐ架け橋となる『食から始まる「学びのSTEAM化」促進事業』)</p> <p>2023年3月:神戸市オープンイノベーションプログラムにて審査員最優秀賞を受賞</p> <p>2023年8月:スープ探偵団～五感を頼りに、おいしさのヒミツを解き明かせ！～を実施</p>

我々は、持続可能な地域社会の実現に向けた消費者教育及び環境教育推進事業において、神戸を拠点にする教育事業者・銀行・大学の3者で、地域の子どもたちに届ける消費者教育コンテンツ開発に取り組みながら、地域の子どもたち・大学生の消費者教育力を高めるモデルの構築に取り組む。

本事業のポイントは「フェアトレード(開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易のしくみ)」をテーマにした消費者教育実践モデルを構築する点である。金融リテラシーマップにおける位置付けとしては、生活設計の分類にて小学生が習得すべきことである「産業に従事する人々は、工夫や努力をしてよりよい製品を生み出していることを理解する」ことを目指す。また、自らの消費行動によって社会にどのような影響を与えることができるのかを子どもたちが知るきっかけをつくる。

# 事業の概要



	omochi	みなと銀行	神戸学院大学
リソース	消費者教育ノウハウ	金融ノウハウ	教員、学生
強み	消費者教育実績	取引先ネットワーク	学生の自由な発想
本件役割	コーディネート	金融監修	学識指導
	教材開発	企業紹介等連携	学生による企画立案

# 事業の概要



## ※1株式会社omochiについて

「食の豊かさにふれられる機会を広げる」をミッションに、食べものが食卓に届くまでの背景を知る機会づくりに取り組んでいる。消費者教育をテーマにしたものでは、昨年度に経済産業省「未来の教室」実証事業を受託し、チョコレートテーマにエシカル消費やフェアトレードについて学ぶ機会を創出した。

[https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000108764.html](https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000002.000108764.html)

## ※2株式会社みなと銀行について

昨年、大学と連携して金融教材の開発に取り組んだ。その際の連携・教育ノウハウを本事業にも活かして取り組んでいく。

[https://www.resona-gr.co.jp/holdings/news/hd\\_c/detail/20221128\\_2791.html](https://www.resona-gr.co.jp/holdings/news/hd_c/detail/20221128_2791.html)

上記取組は、芦屋市とみなと銀行の連携協定の主要施策として、同市特有の学童保育である「キッズスクエア」において、任意傘下の形式で小学生低学年から高学年を対象として、遊びながら「リスク・リターン」を学べる仕組みづくりを目指したもの。背景には、わが国では大人になって初めてリスクをとって資産運用をする必要性が説かれることがあり、子供の頃から少しずつ体験していくことが不可欠であると考えている。

# 教材開発プロセス



◀SDGsをテーマに教材アイデアの発想を体感



◀フェアトレード認証を取得している企業へ訪問



◀現在の消費者教育についてみなと銀行からレクチャー



◀教材のプロトタイプを制作

# omochiによるワークショップ



教材の独創性や学生ならではの発想を引き出すために、ゼミの講義にて、KJ法を基にしたアイデア発想法の講義を実施した。また、過去にomochiが開発した小学生向けの企画を見てもらい、意見を募る形式で子ども向け企画のポイントを自分たちで見つけてもらった。



株式会社みなと銀行が地域企業をゼミに紹介。学生は課外活動として企業のフェアトレードの取り組みを取材し、実社会で実践されている取り組みを学んだ。

# 制作した教材の活用

当日は以下の4種類の教材を港島学園の6年生が体験した。

## すごろく

すごろくを通じて  
フェアトレードの仕  
組みや取引について  
楽しく学ぶ。



クイズでは実際のフェアトレード商品  
を扱うなど工夫が見られた。

## 人狼

公平な取引とは何か  
生産者の立場に立っ  
て考えるゲーム。



他の教材に比べてル  
ールは複雑だが、子どもたちは真剣に  
ルールを聞いて取り組んでいた。

## 重さ比べゲーム

3つのかごにチョコ  
を模した重りを均等  
に分ける。ゲーム後  
には“平等”をテーマ  
に、フェアトレードの基本的な考え方  
について説明した。



## 数出しゲーム

チーム同士の駆け引  
きが繰り広げられた。  
自分のチームの利益  
のみを優先すると  
不利になるルール設計で、全体の利益を  
生むには協力が必要であることを学んだ



# 実施後アンケート(大学生の感想)

---



「フェアトレードに関する知識。フェアトレードについて何となくは理解していたつもりだったけど、小学生に伝えるとなると難しく、理解していない部分もあったなと認識できたから。小学生に教えていく中で自分自身の学びを深めることが出来た。」

# 実施後アンケート(児童の感想)



学んで考えたこと  
一つのものでも色々な売られ方が  
あるということ。売り手側は収入  
が増えるかもしれないし、買い手側  
は種類が増える。自分にあつた  
ものを買うことができるからどち  
らにとっても良い所があつていい  
なと思ひました。

# 実施後アンケート(児童の感想)



学んできたこと  
自分のお金の使い方をしだいでいり  
山ちゃん、いりんなに對してこう  
けしむすのた、たす、お金をで  
すだけ、地球のために使、てい  
こうと思いました。

# 今後の展開

---



- ・前期に大学内のフェアトレードサークルで教材改善に取り組む
- ・神戸学院大学経営学部1年生の必修授業の内容に本テーマを組み込む